

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

• •

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	消防隊員 1 名と消防団員 2 名とで、木造火災 2 階窓枠下へ二連はしごを架梯し、梯上放水中にバランスを崩し落下したもの
3. 体験した事例の中心的要素	二連はしごを消防団員と 2 階窓枠下へ伸梯、団員確保にて主管に小綱でホース確保し約 4 m 高さへ登てい。筒先確保ロープをはしご先端にロープにて固定、横さんの間に片足を通し梯上放水をする。窓から黒煙噴出、視界不良で一時放水位置を変えるため筒先確保ロープを解き、横さんの片足をはずし下段へ降りて再度天井方向へ梯上放水したところ、放水圧力が高くノズルシャットを試みたが耐えきれずバランスを崩し 1 階物置トタン屋根上（約 2 m 下）に落下。危険を予知した団員が落下時に筒先を確保したもの
4. 体験した事例の原因・理由	・はしご梯上放水の位置を変えた際、筒先確保ロープを再固定をせず、反動力による落下防止措置を怠ったこと。また、大丈夫だろうと過信し、はしご横さんに足を通さないで梯上放水したことから、注水姿勢が不安定となったこと。

【体験した事例の直接的原因について】

• •

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

• •

1. 発生日時	平成 19 年 12 月 1 日 午後 11 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、 [木造建物]
8. (7 の活動中) どのような作業中に発生したか	放水活動、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[56]歳、 勤続年数[36]年、 現場経験年数[26] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	隊長	二連はしご梯上放水時の安全管理を怠った。	
経過 2	隊長	二連はしご梯上放水時、落下した。	
経過 3			
経過 4			
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

足元の安全が確保できていた。指揮者が適切に指示した。他隊(員)との連携活動がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 いいえ
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 はい
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 いいえ

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

- ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 いいえ
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 はい
 - ・活動に対する経験が不足していた。 いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかつた。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあつた。	いいえ
・指示内容が実施困難であつた。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

- ・ミーティング時、火災事例ヒヤリハット研修を取り上げ検討。同じような事故が起きないよう職場研修で安全管理マニュアル・ヒヤリハット体験集にて研修。隊員間の連携、現場安全管理の下に活動をすることを確認し、注意力の高揚を図った。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

隊長・機関員との意思疎通（無線）を図り、機関員へ有効圧力に支障がでると判断した場合「放水時のホース延長数、筒先数、二又分岐・二連はしご梯上放水等」を早期に無線で情報伝達し、事故防止の徹底を図る。

